学年担任制の取組

「いつでもどこでもだれとでも」子供たちを支援する体制づくり

神戸市立摩耶小学校

☆摩耶の教職員がまやっこ全員の指導にかかわる。
　子供・保護者　だれにでも相談できる体制
☆教職員の資質向上を図る。
☆学級間の格差をなくす。

学年担任制企画委員会・推進委員会を月に一回程度行う。職員会議、Teams などで情報共有 兵庫教育大学・モデル校三校と共同研究を進める。

[学年として]

１．６年生２クラスを３人（本科教員２名、音楽専科１名）で交代で担任する。音楽専科は、道徳・総合的な学習・学活の時間等の授業も行う。校外学習等の学年での行事も参加する。

[学校として]

２．教科担任制を進める。（３年生以上）
　１・２年生は担任がローテーションをして、道徳などの授業を行う。
３．「どこででもプロジェクト」
　①毎日、クラス間の垣根をこえて、摩耶の教職員が、できるだけ他クラス・他学年の教室に入って、子供の支援を行う。（Teams で情報共有）
　②授業交換
　期間をきめて、他学年の授業を行う。
　１学期は、「まやタイム」の１５分から
　２学期以降も定期的に「まやタイム」の授業交換を行う。
　子供たちが慣れてきたら、一時間の授業を行う。
４．「だれとでもプロジェクト」
　教員の得意分野を生かし、他学年への授業や授業支援を行う。

・音楽・図工・家庭・英語等の専科の授業時間で、誰がどこで授業をしていて、授業の空き教員を把握する。支援が必要な場合、空き教員中心に、各クラスの支援を行う。
・一人一人の授業時間数を把握する。

学年担任制のよい点

・児童より
たくさんの先生に相談することができる。
すぐに相談できる。
授業がわかりやすくなった。先生の得意分野の授業
毎週先生がかわるのがどきどき　新鮮な気持ちで
・保護者より
様々な先生と触れ合う　かかわる
複数の目で子供たちを見守れる
学級担任制より、子供たちの思考力が養われる
様々な方法で子供たちにアプローチ
・教師より
摩耶の教職員がまやっこ全員の指導にかかわる。
教職員の資質向上
学級間の格差がなくなる。
チーム力の向上
児童の対応面で担任一人がかかえこむのではなく、複数で対応できる。

学年担任制の課題点

・児童より
一週間ごとに担任が変わると、混乱する。
先生たちの視点が違う。
・保護者より
情報共有がしっかりできているか心配
信頼関係がうまく築けるか心配
窓口はあるけれど、誰に相談したら一番よいか、わからない。学級担任制の方が相談しやすい。
小学校の間は、固定担任制の方がよいという考えがある。
・教師より
誰が何の授業するかの時間の割り振り
指導の一貫性の必要性
情報共有をどのようにするか

めざす子供たちの姿

安心して学校に通える
自主的に活動する
誰とでも仲良く学習する。